

《 現代版聖書のルーツ 4 》

[PDFファイル](#)

■ 第四部 オリゲネスの『改ざん聖書』とは？

第三部では、バチカン写本・シナイ写本が、『異端の教え』と『改ざんされた聖書本文』から成る『異端聖書』であることを見ました。

これらは、いったい、どういう異端者が作ったのでしょうか？

その答えは、シナイ写本自体の中に記されています！

● シナイ写本に書き込まれている『オリゲネス』

イギリス人の聖書学者アレクサンダー・スーター氏（1873～1949年）は、著書の中でこう述べています。

このシナイ写本とバチカン写本は、コンスタンティヌスが、カエサリアの監督エウセビウスに命じた、あの50冊の聖書のうちの二つであったと推測されています。...

このシナイ写本の本文には多くの『修正者たち』が関わっています。

おそらく最も興味深いのは、七世紀の一人の修正者です。

彼は（シナイ写本の）『エズラ記』への署名を、こう記しました。



これは、一冊の非常に古い写本によって照合された。

その写本は、殉教者、聖パンフィルスの手により照合されたものである。

その写本の終わりには、次のような、パンフィルス自身の手による署名があった。

「オリゲネスの『ヘクサプラ』（旧約聖書）から取られ、

それに準じて修正された。

アントニウスが照合した。

私、パンフィルスが修正した」

《オリゲネス》



パンフィルス（～309年）は、カエサリアのエウセビウス（～340年）から崇敬されていた友人です。二人はいっしょに、カエサリアに、パピルスの巻物の聖書および教父の著作物の**図書館**を設立しました。

その**図書館**の中核は、**オリゲネス**（185年頃～254年頃）による大量の**著作物**でした。

特に、**聖書の数々の書のオリゲネス版**と、その**解釈（説明）**でした。

『**エステル記**』の後にも、**同様の署名**が存在します。...

完全に明らかなのは、（シナイ写本の）旧約聖書の預言の部分が、エジプト人の書記者によって書かれたか、エジプト人によって書かれた「もとの写本」から写されたかの、いずれかであることです。...

この**シナイ写本の源**として、私たちは**エジプト**に目を向けなければならないように思われます。

Alexander Souter , "[The Text and the Canon of the New Testament](#)" p.21~（新約聖書の本文と正典 1913年）

この『**署名**』に書かれていることは、『**シナイ写本**』と『**オリゲネス**』を結び付ける重要な証言です。

（同じ内容の証言は、『カトリック百科事典』 [Catholic Encyclopedia, Vol. 4, p. 86] にも記載されています）

すなわち、次のことが明らかです。

★シナイ写本は、オリゲネスの『聖書』に由来する。

《オリゲネスの聖書》

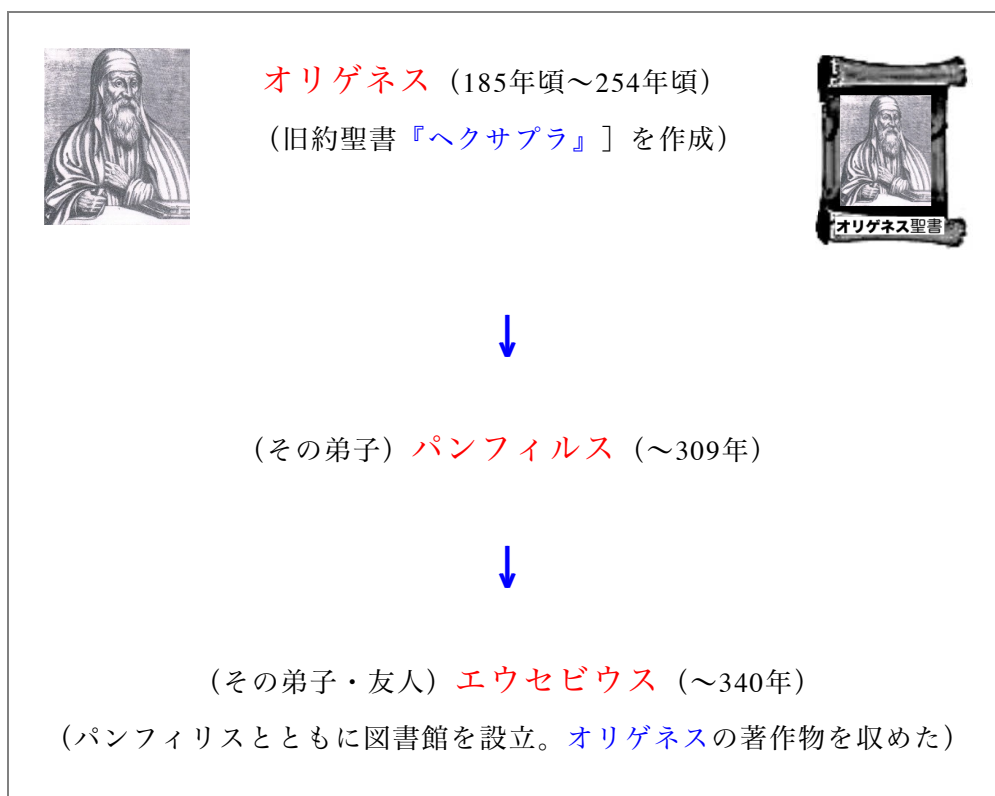
《シナイ写本》



オリゲネスは**エジプト**生まれの人物であり、独自の旧新約聖書（旧約聖書は『**ヘクサプラ**』）を作りました。

オリゲネスの弟子が**パンフィルス**であり、パンフィルスの弟子かつ友人が**エウセビウス**でした。

パンフィルスとエウセビウスは共同で図書館を設立し、**オリゲネスの著作物**をそこに収めました。



パンフィルスの死後、331年、**エウセビウス**はコンスタンティヌス帝からの指示を受けて**50冊の聖書**を用意しました。

この**オリゲネス**とは、いったいどういう人物だったのでしょうか？ さらに詳しく見てみましょう。

●オリゲネスとは？

■ギリシャ哲学の追従者

オリゲネスは、**エジプト**のアレクサンドリアにある学校の第三代の**校長**でした。ただし、その学校は、紀元180年に、**ギリシャ哲学者**のパンタエヌスによって設立されたものです。

オリゲネスは、**新プラトン主義**の創始者アンモニオス・サッカス（紀元170年～243年）から教えを受けていました。新プラトン主義は、**アリストテレス論理学**と**東洋のカルト**の教えとの奇妙な組み合わせです。

その**哲学**の追従者である**オリゲネス**は、その見解を**キリスト教**に融合させようとしていました。

■聖書改ざん者

オリゲネスは広範囲に旅をし、**どこでもギリシャ語の新約聖書**を見つけると、それを**自分の教**



理にぴったり合うように改ざんしました！

もちろん、彼は、自分はそれらの写本を「修正」しているだけだと考えていました。
しかし、神の人々が原文の読み方を変えることはないはずです。



オリゲネスには、一人の裕福な後援者（アンブロシウス）がいました。アンブロシウスは、七百人以上の速記者と、大ぜいの写字生、および、字の達筆な若い女性たちを用意し、オリゲネスが聖書を組織的に改ざんするのを援助しました（エウセビウス『教会史』）。

■オリゲネスの信念

その一部は、次の通りです。（詳細は→D-4《オリゲネスの信念》を参照）

- 彼は、「洗礼による生まれ変わり」を信じていました。（人は水のバプテスマによって救われるという信念）
- 彼は、「万人が救われることになる」と信じていました。すなわち、サタンおよび悪霊どもを含めて、すべてのものが最終的には和解されること、です。
- 彼は、「イエスは一人の被造物にすぎない」と信じていました。
- 彼は、「人は罪のない者となるために、煉獄（れんごく）に行かなければならない」と信じていました。この教理は、聖書のどこにも見出されません。
- 彼は、「聖餐式の時、パンとぶどう酒が実際にキリストの体と血に変わる（化体）」を信じていました。
- 彼は、「前世からの生まれ変わり」および「カルマ」を信じていました。すなわち、人のたましいは、この現在の地上に存在するより前に、別の世界で先に存在しており、その前世からの祝福あるいは呪いを持ち込んだということです。
- 彼は、「バプテスマを受けない幼児は地獄に行く」ことをほのめかしました。
- 彼は、「聖書に書かれているようなイエスへの試みが本当に起こったとは、知的な人なら信じる事ができないはずだ」と主張しました。
- オリゲネスは、イエス様の言われたことを正すことさえしました。

マタイ13・38にある「種を蒔く人」のたとえの箇所、イエス様は、「畑とは、この世です」と言っておられます。

ところが、オリゲネスは、「畑とはイエスであった」と言いました。その後、彼は考えを変えて、畑を「聖書のことだ」としました。

- 彼は、「聖書は、文字通りに解釈するものではない」と信じていました。

（オリゲネスは、「寓話的解釈の父」でした）

- 彼は、実際に「アダム」が存在したことも、「人間の墮落」も信じていませんでした。

また、「創世記一章～三章は、文字通りに解釈すべきものではなく、歴史的な記述でもな

い」と信じていました。

- 彼は、「マタイ十九章は、『神の人は去勢を受けるべきであり、自分自身を去勢し続けていくべきである』と解釈するのが正しい」と信じていました。...

まとめると、こうなります。

■ オリゲネス



聖書改ざん者

- 広範囲に旅をし、どこでもギリシャ語の**新約聖書**を見つけると、それを**自分の教理**にぴったり合うように**改ざん**した。
- **新プラトン主義**の創始者から教えを受けた。
- **イエスは一人の被造物**にすぎないと信じた。
- 『**前世からの生まれ変わり**』を信じた。
- 「**洗礼による生まれ変わり**」（人は水のバプテスマによって救われるという信念）を信じた。
- 「人は**罪のない者となるために、煉獄**（れんごく）に行かなければならない」と信じた。

オリゲネスの**思想・信念**は、こうでした。

【ギリシャ哲学】・【新プラトン主義】

【万人が救われることになる】・【イエスは一人の被造物にすぎない】

【人は罪のない者となるために煉獄に行かねばならない】・【前世からの生まれ変わりを信じる】

【バプテスマを受けない幼児は地獄に行く】・【聖書は、文字通りに解釈するものではない】

【アダムが存在も人間の墮落も信じない】・【創世記一章～三章は歴史的記述ではない】

★**オリゲネス**は、**ギリシャ哲学**の影響を受け、**聖書**をそのまま受け入れず、**自分の教理**に合うように**改ざん**した『**異端者**』であった。

次に、シナイ写本の中に言及されているオリゲネスの『ヘクサプラ』とは何かを見てみましょう。

●オリゲネスの『ヘクサプラ』とは？

オリゲネスが作った旧約聖書「ヘクサプラ」（紀元245年）は、六つの欄がある**並列聖書**でした。

それには、次の内容がすべて取り込まれていました。



オリゲネスの改ざん旧約聖書『ヘクサプラ』

第一欄 ヘブル語旧約聖書

第二欄 ヘブル語旧約聖書のギリシャ語訳

【アキラ訳ギリシャ語旧約聖書】

- アキラ（紀元80年～135年）は、**占星術**を捨てることを堅く拒んだことと、**降霊術**を行ったことで、クリスチャンの社会から**除名**された。
 - 彼は、**ジュピター（ローマの最高神）**のための**異教の神殿**を**建設**する指揮を執り、かつて**至聖所**のあった場所に**ローマ皇帝の像**を据えた。
- 第三欄
- 彼は、メシア（キリスト）に関する**多くの聖書の箇所**を、それらが主なるイエス・キリストに当てはめるのが不可能であるように**意図的**に訳した。
 - 教父イレナエウスはアキラを、「**聖書をゆがめる** 邪悪な者」として激しく攻撃した。
 - 彼は、**イエス**は、マリアと、「パンセラス」という名の金髪のローマ兵（ドイツ生まれ）との間の**私生児**であるとした。

【シマカス訳ギリシャ語旧約聖書】

第四欄

シマカスは二世紀の**異端エビオン派**であり、**イエス・キリストの神性を否定**した。

【七十人訳ギリシャ語旧約聖書】

第五欄

数々の**外典**を含む。

【テオドシウス（セオドシオン）訳ギリシャ語旧約聖書】

第六欄

外典『スザンナの物語』を含む。テオドシウスは**異端グノーシス派**であったが、その後、**ユダヤ教**に転向した。

オリゲネスの改ざん旧約聖書『ヘクサプラ』には、【**異端エビオン主義**】・【**異端グノーシス主義**】という

要素も含まれていることがわかります。

第三部で、キリスト教異端者が作る異端聖書は、『異端思想を含む改ざん聖書』となるはずであることを見ました。(→)

『異端聖書』 = 『異端思想』 + 『改ざん聖書』

まさに、その通りのことが、バチカン写本とシナイ写本と同じく、このオリゲネスの『改ざん聖書』でも見られます！

以上のことをまとめると、こうなります。

★オリゲネスの『改ざん聖書』には、

《異端者たちの『聖書』》と《外典》が含まれている。



★オリゲネスの『改ざん聖書』は、

『異端の教え』と『改ざん聖書本文』から成る『異端聖書』である。

先に紹介したイギリス人の聖書学者アレクサンダー・スーター氏（1873～1949年）は、次のことも指摘しています。

このシナイ写本とバチカン写本は、コンスタンティヌスが、カエサリアの監督エウセビウスに命じた、あの50冊の聖書のうちの二つであったと推測されています。...

Alexander Souter, "[The Text and the Canon of the New Testament](#)" p.21~

(新約聖書の本文と正典 1913年)

これは、次のことを意味します。

● ローマ皇帝の指示による50冊の聖書

紀元331年 ローマの皇帝コンスタンティヌスがエウセビウスに指示して50冊の聖書を作らせた

紀元311年、ローマ皇帝コンスタンティヌス1世は、エウセビウスに指示し、50冊の聖書を作成させた。
次のような記録が残っています。

『聖書の準備に関する、コンスタンティヌスからエウセビウスへの手紙』

“...I have thought it expedient to instruct your Prudence to order fifty copies of the sacred Scriptures (50冊の聖書) ...

... to be careful to furnish all things necessary for the preparation of such copies (それらの聖書の準備のために必要などんなものも与える) ...」

エウセビウス著『コンスタンティヌス帝の生涯』

ところで、この50冊の聖書作成の指示に関してさらに調べる前に、まず、ローマの皇帝コンスタンティヌスおよびエウセビウスがどういう人物であったかを見ることにしましょう。彼らは次のような人物でした。

● コンスタンティヌス帝とは？

彼は、こういう人物でした。（詳細は→[D-7](#)参照）

コンスタンティヌスは、イエス様が神としての御性質を持っておられることを全く信じていませんでした。皇帝であった彼は、自分を「キリスト教徒」であると公言していた時期、ローマの神秘カルトの高位の祭司でした。

彼が回心したとされていた時の後も、彼は幾度も殺人を犯しました。

彼は、彼の妻と息子をも殺したのです！

コンスタンティヌスは死んだ時、太陽崇拝者たちの高位の祭司でしたが、また同時に、この地上の神の教会の「最高権威者」であるとも主張していました！

コンスタンティヌスはコンスタンチノーブル（イスタンブール）を献呈した時、そのセレモニーで異教の儀式とクリスチャンの儀式の両方を用いました。

彼が異教の信仰とキリスト教を混合しようとしたことは、彼が造った貨幣でもわかります。

彼は貨幣に、マルスあるいはアポロ（ニムロデ）の肖像とともに、十字架も（特に、クリスチャンと公言する人々を喜ばせるため）刻印しました。

さらに彼は、作物の保護と病気のいやしのために、異教の魔法も信じ続けました。

- ローマの神秘カルトの高位の祭司
- 妻と息子をも殺害

- ローマ皇帝 **コンスタンティヌス**
(**50冊**の聖書作成の指示者)

- **太陽崇拝者**たちの高位の祭司
- 貨幣に **アポロ** (**ニムロデ**) 像を刻印
- **異教の魔法**を信奉
- 追放された **アリウス**の復帰を許可

★**50冊**の聖書作成を指示した **コンスタンティヌス**は、

自分の妻子をも **殺した**、『**太陽崇拝の祭司**・**異教の魔法の信奉者**』であった。

● **エウセビウス**とは？

彼は、こういう人物でした。(詳細は→[D-6](#)参照)

初代教会の歴史を記した「偉大な歴史家」とされている **エウセビウス**は、異端の **アリウス派**であり、**アリウスの友人**でもありました。

アリウスは、**イエスは肉において来られた神ではない**と信じていました。

すなわち、**イエスは一人の被造物にすぎない**と信じていたのです。

アリウスにとって、イエスは一人の人間以上の存在ではあっても、決して神ではなかったのです。

エウセビウスは、「**オリゲネスこそ最も偉大な人物**」と考えていました。

オリゲネスの弟子が **パンフィルス**であり、**パンフィルス**の弟子かつ友人が **エウセビウス**でした。

エウセビウスは **パンフィルス**と共同で図書館を設立し、**オリゲネスの著作物**をそこに収めました。

- **エウセビウス**

- **アリウス派**
- **アリウスの友人**
- **イエスは肉において来られた神ではない**と信じていた
- 「**オリゲネスこそ最も偉大な人物**」と考えた

エウセビウスの **思想・信念**は、こうでした。

【**異端アリウス主義**】

【**イエスは肉において来られた神ではない**】

【イエスは一人の被造物にすぎない】

★エウセビウスは、オリゲネスを崇敬した『アリウス主義の異端者』であった。

次に、この**50冊の聖書**とバチカン写本・シナイ写本の関係について、さらに見てみましょう。

●50冊の聖書の中のバチカン写本・シナイ写本

■**ジャスパー・J・レイ師**（聖書教師、宣教師）は、『聖書本文の権威者たち』が述べている七つの参照箇所を紹介し、こう述べています。

「聖書本文の権威者たちは、『**シナイ写本とバチカン写本は、紀元331年以降にエウセビウスによりコンスタンティヌスのために作られた50冊のギリシャ語聖書のうちの二つの現存写本**である』と信じています」

1. **バーゴン**,ミラー共著,"The Traditional Text",p.163
2. "カトリック百科事典 (Catholic Encyclopedia)",Vol.4,p.86
3. Gregory,"The Canon and Text of the New Testament",p.345
4. **アイラ・M・プライス博士** [古代言語・文献学教授] 著
『英語聖書の起源』"Ancestry of the English Bible",p.70
5. A.T.Robertson,"Introduction to the New Testament",p.80
6. Dr.Philip Schaff,"Companion to Greek Testament",p.115
7. **スクリブナー博士**,"Introduction to the New Testament",Vol.2,p.270



("God Wrote Only One Bible",p.19, Jasper James Ray)

■**T・C・スキート氏**（1907年～2003年）は**聖書写本**など古代文献に生涯をささげ、聖書写本に関する数々の本も著しました。彼は1931年から**大英博物館**（シナイ写本等を所蔵）の司書となり、数々の**写本の管理者**でした。**シナイ写本**は、彼が大英博物館に勤務してまもなく、1933年、ソビエト政府から購入されました。

スキート氏は、1999年の著書の中で、次の要旨を述べています。

シナイ写本は、ローマ皇帝**コンスタンティヌス**からの指示により完全な形での聖書として作られよう

としていたが**完成前**に破棄されたものであり、一方、**バチカン写本**は、実際に**コンスタンティヌス**帝に渡された**あの50冊の聖書**のうちの一つであった。

『シナイ写本とバチカン写本とコンスタンティヌス』

(1999年 T.C.Skeat "The Codex Sinaiticus, The Codex Vaticanus and Constantine",
Journal of Theological Studies 50)

■**D・O・フラー**博士は次のように述べています。

「**バチカン写本とシナイ写本**が**保存**されてきたのは、おそらく、それらが『**ベラム皮紙**』に書かれたからです。

ただし、当時の**それ以外**のほとんどの書物は『**パピルス紙**』に書かれました。

ティッシェンドルフ（シナイ写本の発見者）およびホート（RV本文の作成者）を含めて、多くの学者が、この**バチカン写本とシナイ写本**は、**エウセビウス**がコンスタンティヌスの下で、コンスタンチノーブルの諸教会での使用のために用意した、**あの50冊の写本のうちの二つ**であると考えています」

("Which Bible", p.163 , David Otis Fuller)

■**フロイド・N・ジョーンズ**博士はこう述べています。

「**バチカン写本とシナイ写本**...それは、**エウセビウス**が**紀元331年**以降、**コンスタンティヌス**のために自らが監督して作った、あの最初の**50冊の聖書写本**のうちの**現存する二つの大文字写本**です」



"Which Version Is The Bible?", p.106~

「これらの写本は、『**立派なベラム皮紙**』（**上等の皮紙**）で、**ローマ政府の印**も記されて、コンスタンティンのために用意されました。

この『**ベラム**』（動物の皮）は、**とても上等**なものであり、**皮紙二枚**を作るだけのために**一頭のカモシカ**が使われるほどでした。

このような事業のために**十分な資金**を持っていたのは**王室だけ**であったはずですが」(D-5)

●三種類の聖書の中の『エウセビウス-オリゲネス版』聖書

■ベンジャミン・G・ウィルキンソン博士は、このローマ皇帝コンスタンティヌスの時代に、三種類の聖書が存在していたことについて述べています。

紀元312年、コンスタンティヌスはローマ帝国の皇帝になりました。

それからしばらくして、彼は自分自身のためにも、また彼の帝国のためにもキリスト教を受容しました。

異教の宗教とキリスト教との融合をもたらそうとしていた彼が見出したのは、優劣を競う三つのタイプの聖書でした。

すなわち、後にTR（テキストゥス・レセプトゥス）となる本文によるコンスタンチノーブルの聖書、パレスチナの『エウセビウス-オリゲネス版』聖書、および、エジプト版聖書でした。

特に、後にTRとなる聖書本文を主張する人々と、『エウセビウス-オリゲネス版』聖書本文を主張する人々との間の争いは熾烈でした。

後にTRとなる聖書本文の擁護者たちは、比較的質素な階級に属し、初代教会にならうことを熱心に求めている人々でした。

ベンジャミン・G・ウィルキンソン博士著『立証された欽定版聖書』第二章

[Our Authorized Bible Vindicated](#)

すなわち、次の三種類の聖書です。

1. 後にTR（テキストゥス・レセプトゥス）となる本文によるコンスタンチノーブルの聖書
2. パレスチナの『エウセビウス-オリゲネス版』聖書
3. エジプト版聖書



三種類のうちの2番目の『エウセビウス-オリゲネス版』聖書について、ウィルキンソン博士はこう述べています。



『エウセビウス-オリゲネス版』聖書本文は、純粋な神のことばと、オリゲネスの思いの中にあつたギリシャ哲学とが混ざった産物でした。

それは『神のことばをグノーシス主義に適合させたもの』と呼べるかもしれません。

オリゲネスの『改ざん聖書』とは？

コンスタンティヌス帝はキリスト教を受容したため、彼はそれらの数々の聖書のうちのいずれかの聖書を**選択**することが必要となりました。

ごく自然に、彼は、『**オリゲネス**によって書かれ、**エウセビウス**によって編集されたもの』を好みました。...

コンスタンティヌスが好んだタイプの聖書とは、キリスト教界について彼の**帝国主義的**な概念の土台を与えてくれるような『**読み方**』のある聖書でした。

オリゲネスの哲学は、コンスタンティヌスの『宗教と政治』の**神政政治**に役立てるために、ぴったり適合していました。

エウセビウスは『**オリゲネスの大称賛者**』であり、彼の**哲学**を深く学んだ人でした。

彼は、『**オリゲネス版の聖書**』である『**ヘクサプラ**』の第五欄を編纂したばかりでした。

コンスタンティヌスはこれを選び、**50冊の聖書**を用意するよう要請しました。

ベンジャミン・G・ウィルキンソン博士 同書

さらに、**フロイド・N・ジョーンズ博士**はこう述べています。

■ 「問題は、エウセビウスがコンスタンティヌスのためにその**50冊の聖書**を用意する際、**ガイド**として何を用いたかです。

《F.N.ジョーンズ博士》



エウセビウスは、「**オリゲネスこそ最も偉大な人物**」と考えていました。

彼は**オリゲネスの書状**を800通収集し、オリゲネスの『**ヘクサプラ**』を用いたと述べています。

こうして、**エウセビウス**は旧約聖書のために**オリゲネスの『ヘクサプラ』**の第五欄（※）を選択したのです。（※ **アイラ・M・プライス博士** [古代言語・文献学教授] 著『英語聖書の起源』）



そして彼は**外典**を付け加え、さらに、**オリゲネス編集**の**新約聖書**を使って完成させました。...

シナイ写本も**バチカン写本**も、それらの**ルーツ**は**オリゲネス**にあります」

（フロイド・N・ジョーンズ博士）

● まとめると...

以上のことをまとめると、こうなります。

★バチカン写本とシナイ写本は、ローマ皇帝コンスタンティヌスがエウセビウスに用意させた、**50冊の聖書**のうちの一つである。

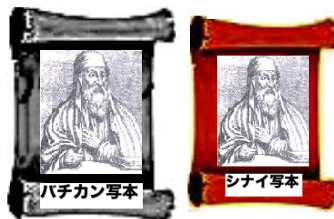
★エウセビウスは、オリゲネスの『改ざん聖書』から**50冊の聖書**を作った。

■オリゲネスの『改ざん聖書』



■エウセビウスの『50冊の聖書』

(バチカン写本・シナイ写本を含む)



すでに見た通り、「シナイ写本は、オリゲネスの『聖書』に由来」していました。(→『[●シナイ写本に書き込まれている『オリゲネス』](#)』の項を参照)

こうして、シナイ写本についてだけでなく、バチカン写本についても、次の結論が導き出されます。

★バチカン写本とシナイ写本は、オリゲネスの『改ざん聖書』から作られた。

さて、現代版聖書はネストレ-アーラント版/UBS版聖書本文を通じて聖書本文RVに由来しており、さらに

それは『[バチカン写本・シナイ写本](#)』に由来しています。

したがって、上記の結論と合わせると、次の結論が導かれます。

★現代版聖書のルーツは、オリゲネスの『改ざん聖書』である。

次の第五部では、これまでにわかったことがらを整理し、まとめてみることにしましょう。

[→次へ \(E-12\)](#)

[聖書の歴史 目次](#) [E-1](#) [2](#) [3](#) [4](#) [5](#) [6](#) [7](#) [8](#) [9](#) [10](#) [11](#)

[聖書の歴史 概観表](#)

[聖書の歴史 目次](#)

[聖書のホームページ](#)

[TR 新約聖書](#)

選択カテゴリにジャンプ!

[利用規約](#) Copyright C. エターナル・ライフ・ミニストリーズ